## 1 剰余の定理

P(a) を a に関する多項式とする

$$P(a)=(a-k)Q(a)+R$$
  $\qquad \qquad (P(a)\ \&\ (a-k)\$ で割る)   
ここで、 $a=k\ \&$ 代入すると 
$$P(k)=(k-k)Q(k)+R$$
 
$$P(k)=R=0$$
 よって  $P(a)=(a-k)Q(a)+P(k)$  つまり  $P(k)=0\Leftrightarrow P(a)\ \&\ (a-k)$  で割り切れる。

具体例

$$P(a)=a^n-b^n$$
 とすると、 $P(b)=b^n-b^n=0$  なので、 $(a-b)$  は  $a^n-b^n$ を割り切れる 実際に、 $a^n-b^n=(a-b)(\sum_{k=0}^{n-1}a^{n-1-k}b^k)$   $n=3$  のとき、 $a^3-b^3=(a-b)(a^2+ab+b^2)$ 

## 2 $-1 \times -1 = 1$ の証明

$$-1+1=0 \qquad \qquad (マイナスの定義  $-a+a=0)$  
$$-1\times (-1+1)=-1\times 0 \qquad \qquad (-1\ をかける)$$
 
$$(-1)\times (-1)+(-1)\times 1=0 \qquad \qquad (分配法則と、 $a\times 0=0)$  
$$(-1)\times (-1)+(-1)=0 \qquad \qquad (a\times 1=a)$$
 (両辺に  $1\$ を足す)$$$$